

日本感性工学会大会 (05、秋) インハウスデザイナーのMODへのオリエンテーション

How to orientate in-house designer toward MOD

竹川亮三 (シンカデザイン) / デザイン&ビジネス研究部会

1. はじめに

ITの普及は製造業においても市場調査やマーケティングツール、プレゼンテーションの効率化のみならず商品の企画やデザイン開発プロセスやそれ以降の設計や製造プロセスまで含むトータルな商品開発の一元データベース化によるコンカレントな開発プロセスを可能とした。こういった動きの中でインハウスのデザイン部門の立場は調査、企画という前工程と設計製造という後工程の中間的位置にある事からCADとCGを駆使し前後を結ぶというコンカレントエンジニアリングプロセスでの中心的存在として重要な機能を担う事となった。また一方商品開発面でもコピキタス時代を反映してビジュアルなインターフェースやそれとハードウェアを一元化した商品をデザインするという事例が増え、従来のようにデザイナーをソフト専用、ハード専用といった分類の仕方では現実に即応しなくなってきた。更には、まったく新しい概念をもった商品企画や事業創造の初期段階で「アブダクション能力+ビジュアル化能力」というデザイナー固有の能力を用いた事業提案のような事も時代の要請を反映し企画部門からデザイン部門へ移ってきている。またIR関係でも新たなコミュニケーション力として認知され始めている。これらの活動でのそれぞれの専門分野については外部の専門企業に委託できるが、インハウスでの重要課題はこれらの活動全体を理解把握し戦略提案をし経営やパブリックと直接コミュニケーションできるデザイン部門にすることであり、その為のデザインマネジメントの養成または教育が急務となってきた。各企業内デザイン部門の組織上の位置付けを再考すべき時であり、またそれに呼応して教育界との連携の仕方をも見直すべき時と考える。即ちMODのデザイナー版であるMODの領域の課題として認識しようという事である。

2. 今、デザイナーに要求される能力と現実

インハウスデザイナーの必要な能力は1) 独自の世界認識や美意識を持つことは当然として更に、2) 今の時代全体を見通してそこから時代の欲求を抽出してくるアブダクション能力と、3) それを自社のビジネスとの関連で考えられるビジネス感覚と、4) それを自分の手を使って視覚化する表現力と、5) それをCADやCGに取り込み加工するスキル、6) ハードデザインとソフトデザインの総合的商品像を創造する力とITツールを使

って展開する能力 7) その考えを他にプレゼンテーションする能力、などが基本的なものである。大別すれば、A群: 1) & 2) は企業人としての基本的センスともよべる能力であるが、B群: 3) & 7) はビジネス感覚とも呼ぶべき能力でありデザイナーが将来的にMOD (management of design) を担っていくための根本能力である。C群: 4) 5) & 6) はソフトデザインとハードデザインを商品像として一元化してイメージする能力とそれをITツールを駆使し具現化できるデザイナーの新能力である。特に近来クローズアップされているのはB群とC群の能力である。これ等の能力はデザインのあらゆる可能性と実態を認識し企業活動に貢献できるすべての場面で事業活動に貢献し経営に参加するといわゆるMODへの発展の基礎となるものである。しかしながらこういった認識は必ずしも産業界でも共有されておらず、他部門を経験するとか外部機関で再教育するとかいったキャリアデベロップメントの道が準備されていない。一方教育界でもその要求の真意を理解したと思えるカリキュラム作成はまだ試行錯誤の途上についたばかりである。従って企業内にMODを定着させる為にはデザイン組織は企業内での自己の生息領域を自ら広げると同時にそれらに相応しいデザイナーの能力開発を自らが行わなくてはならないのが実情である。例としてここに筆者が社長であった家電メーカーのデザイン会社の実際の中期経営計画(2003年版)上での扱いを紹介する。

3. 今後は

このように新規に要求されている能力は恐らくデザイナーを志望する学生や卒業したばかりの若者達には理解し難いものも多々あると考える。それは高度な学際的な理解力とある程度の企業内での現場経験の二つがないと見えてこない種類のものであるからだ。産業界、教育界がこぞって考えるべき問題だと思う。現在の企業ではこの問題を短期に解決するために外部の専門家集団への業務委託と中途採用者により能力補給されており、それが新卒採用者が少ないといった要因を作っている。これでは重要なマネジメントであるMODを企業内に育て定着させ得る人材が育たないということになる。今後の産業界の課題であり当部会の基本課題でもある。以上